

キャラクター名
朝陽 汐(あさひ しお)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン オルクス		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	アマテラス艦長
オプション			年齢	30	性別	外見男性(女性)
覚醒	探求	衝動	飢餓	初期侵食率	33 %	
出自	待ち望まれた子	経験	記憶喪失	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	4	0	0			4	戦闘移動	11
社会	3	0	0			3	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転: 船	2		芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
手裏剣	射撃	1r-1	-	2		同インに対する命中達成値+2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 傭兵	
コネ: 専門家	
コネ: 情報収集チーム	
その他: 自動巡回ソフト	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
"アマテラス(三海の女神)"	P	N		
"アマテラスのRB"ナロア	P	信頼	N	食傷
家族	P	尊敬	N	悔悟
"血濡れた福音"サン・マルコ	P	執着	N	敵愾心
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 18 残り財産P: 9

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
領域の加護	3	2	Xジャー	視界	単体	自動	-	
効果: 次メジャー 攻+Lv*2								
要の陣形	2	3	Xジャー	-	3体	-	-	
効果: 対象三体に変更 1ｼﾌﾞLv回								
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 判定直後 ダイス目を10に 1ｼﾌﾞLv回								
領域の庇護	1	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果: BS直後 暴走以外のBSをLv個解除 1ｼﾝ1回								
支援射撃	5	2	オート	武器	単体	自動	-	
効果: 射撃武器装備中 判定前 判D+Lv個 1R1回								
リバーサルショット	2	6	オート	20m	単体	自動	リミット	
効果: 判定直後 達成値+10 1ｼﾌﾞLv回								
力の法則	2	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: ダメX直前 ダメージ+[Lv+1]D 自分不可 1R1回								
構造看破	★							
効果: 人工物の構造を見た瞬間に分かる。								
機械の声	★							
効果: 機械に指示を出す。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

《性格》
「アマテラスの艦長を務めている、朝陽だ！よろしく！」
「ふむ…さすがだ。マリア製品は勉強させられるな…。ここはこうなって……………って、ああ、私を呼んでいたのか？すまないすまない。」

男装している女性で現「アマテラス」の艦長を務めている。口調も仕事も荒めで言動も男っぽいので、扱いとしては男性で良い。表情豊かで、オンオフを使い分けている。あと声がかい。

機械バカで、根っからの機械好き。機械のフォルム、駆動音、機構とその理論、歴史、文化との関係…(以下割愛)が好きで、自分で組み立てることもある。また、ノイマン能力持ちなのもあり、一度みた機械は技術レベルさえあれば自分で細部まで再現することが出来る。作業に熱中しているときは声をかけても気付かないことが多い。

ルンバの「クロ」はお気に入りの機械で本人曰く「戦友」

強行偵察部隊「アマテラス」の司令官兼艦長としての彼の方針は律を重んじるタイプである。海上での任務および戦闘中は規律違反が船員全員の命に関わるためだ。だから、艦内におけるルールに対しては厳しめに指導している。

ただ、最低限のルールを守ること、自分の行動に責任を持つことの二つが出来てさえいれば、従来のルールと異なった要求を受け入れることもある。

三年前に一度記憶を失っており、「故郷」「家族構成」「機械が好きだったこと」以外の記憶がほとんどない。生活困難になるようなことはなかったが、家族や知人からは当然のごとく心配された。それに加え、男のように振る舞い出すものだから、病院にも詰められた。しかし、詳しいことはわからず、記憶も無いものは無いので、途中で周りが諦めた。

当の本人は不安そうな素振りを見せないようになっているが、毎晩機械をいじりながら、ぼんやり考えている